

暗唱聖句: 愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。(コロサイ3:14)

今週の聖書教育誌の週題は「新しい人を着て」です。パウロはローマでの獄中生活の中でこの手紙を書きました。この手紙を書くに至ったのは、エフェソでの福音宣教で救われたエパfrasからコロサイの教会の困難な様子が知らされたためでした。

コロサイの町はエフェソから約160Kmほどの距離にあり東方に繋ぐ商業路に位置して近隣のラオディキアとヒエラポリスと三つの町がつながる場所でした。肥沃な牧草地があり品質の良い衣服が生産され商業地として栄えていたようです。コロサイは染色の町として有名であったのです。現在ではその町の跡は残っておらず正確に場所は分からなくなっています。コロサイの教会は恐らく、エフェソにいたパウロから派遣されたエパfras達が建て上げたのです。そして、フィレモンもコロサイの教会に属する人でした。「フィレモンへの手紙」は「コロサイの信徒への手紙」と一緒に書き送ったとされています。

このコロサイの教会は異邦人の教会でした。教会の働きによりユダヤ人以外のギリシア人やその他の民族のすべての人たちにキリストの福音が届けられていったのです。パウロ自身はこの教会を訪れてはいません。しかし、パウロがエフェソに長く滞在したことでアジア州の全域に福音が届けられていくことになったのです。

「使徒言行録 19:10 このようなことが二年も続いたので、アジア州に住む者は、ユダヤ人であれギリシア人であれ、だれもが主の言葉を聞くことになった。」

異邦人に対してパウロはキリストを語る時に彼らの偶像礼拝を捧げる神々に対する心のあり様をこのように記しています。

「コロサイ 1:21 あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。」

そして今、真の神の愛と恵みについて異邦人を含めた「すべての民」に向けて語り伝えます。

「コロサイ 1:27 この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。」

この福音が伝えられた教会に「偽教師」と言われる人たちが入り込んできます。その人たちの言葉に惑わされている教会を危惧したエパfrasがパウロに知らせ、このパウロの手紙によってコロサイを含む近隣の人々がキリストとは異なる誤った教えから解放されるキリストの真理を知ることになったのです。

「偽教師」は言葉を尽くして偶像礼拝に頼る人々に対して悪霊の力はキリストの力だけでは抗えないと何か他の権威や儀式も必要であると伝えていました。パウロはこのような誤った人をだますようなことに対して激しく叱責します。

「2:8 人間の言い伝えにすぎない哲学、つまり、むなしいだまし事によって人のとりこにされないように気をつけなさい。それは、世を支配する霊に従っており、キリストに従うものではありません。」

「2:18 偽りの謙遜と天使礼拝にふける者から、不利な判断を下されてはなりません。こういう人々は、幻で見たことを頼りとし、肉の思いによって根拠もなく思い上がっている」

「2:23 これらは、独り善がりの礼拝、偽りの謙遜、体の苦行を伴っていて、知恵のあることのように見えますが、実は何の価値もなく、肉の欲望を満足させるだけなのです。」

このような異端思想はキリストの福音から離れ、恵みを矮小化し、キリスト以外のほかの権威をも認めさせようとしていることも明らかです。パウロはキリストは完全なる神であられるから、人にはキリスト以外の何も、またほかの誰をも必要ではないと真理を語りました。

さらに異邦人に対してキリストの福音はあなたがた「すべての民」に届けられたものなのだと伝えま

す。ギリシア人であれ、ユダヤ人であれ、生まれながらの身分の違い、奴隷、未開の人。当時には様々な人と人を分け隔てる壁がありました。キリストの福音はその壁をすべて取り壊し、神の愛と恵みに受けとめられて人間の持つ罪からも解放されることを告げたのです。

「3:8 ~10 今は、そのすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。互いにうそをついてはなりません。古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。」

この真理を受けて、もはや世の移ろいに振り回される「古い人」をその行いからも脱ぎ捨ててキリストに倣う「新しい人」へと日々新たにされて成熟した者へと高めていただけるとパウロは語ります。例えてみるならば、愛着があるけれど着古した服を決意をもって脱ぎ捨てて、生まれ変わった生活を始める自分によりふさわしい新しい服を着るようになります。

「3:12 ~13 あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。」

当時の異邦人の人々にとり「神に選ばれ」「聖なる者」「愛されている」のはユダヤ(イスラエル)の民に向けられた言葉でした。しかし、彼らにとって驚くべきことにはキリストの福音はユダヤ人だけのものではなく、民族を越えてすべての人(新しいイスラエル)へ愛と救いが届けられた恵みをうけて、互いに忍び、赦し合うように改めて強く勧めているのです。コロサイの人々には異端を退ける大きな希望の言葉であったのです。

「3:14 これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。」

異端思想を含む人間の罪は分断と対立を生み、対して神の愛は閉ざされた互いの心に新たな信頼とキリストにある平和の絆を結びます。コロサイの人々は異端を退けました。

「愛を身に着けなさい」は現代を生きる私たちキリスト者にも語られている言葉です。ウクライナ侵攻、ミャンマーや香港の民主化弾圧、アフガンやシリアの抑圧、紛争・暴力、数えきれない差別・偏見、飢餓、貧困、自然災害、私たちの生きる世界はなんと辛く愚かな時代が続くのでしょうか。それでも心ある人や多くのキリスト者は愛を受けて立ち上がり歩んでいます。「新しい人を着て」とは自身の足元を見つめて神の愛の恵みをいただいている幸いを覚え、今を必要としている「となり人」へ受けた恵みを届けることだと思われました。その小さな一つひとつの働きが積み重なることで「キリストにある平和」を実現できるのだと信じています。

●分かち合い

- ・クリスチャンとなって自分が変わったと自覚できることはなんですか。
- ・教会で使われる言葉で「異端」を未信者の方にどのように語りますか。



ショートメッセージは、教会ホームページから動画でも視聴できます。
左のQRコードを読み込むか、スマホ・PCからご覧の方は[こちら](#)をクリックしてください。
公開：6月16日(木)～